

「北極圏旅行記 2017 夏 (5)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋
～7/26 スウェーデンの友人宅滞在～

友人宅は、バストゥトレスク郊外にある。郊外と言っても、駅から歩いて5分、その半径5分の範囲が、街のすべてである。一応駅の周辺が「街の中心」のだが、店やユースが数軒あるだけで、あとは全部「郊外」の街並みである。



日本人の感覚では、これは住宅地というよりも、高級別荘地である。どの家も、競うように花を植え、芝を刈り、美しいたたずまいになっている。この街の特徴は、とにかく非常に「静か」ということだ。聞こえるのは、野鳥の鳴き声と、時々遠くの線路を通る列車の音ぐらいだ。



友人の奥さま心づくしの夕食。メインはサーモン料理と、ポテトのグラタンでした。飲み物は、こちらの定番のポマックです。ポマック (POMMAC) という

のは、シャンパンを模した炭酸飲料で、ノンアルコールなので、私でも安心して飲める。私がこれを好きなことを友人が知っていて、何本も買っておいてくれたのだ。あまりはいつももらって帰る。

この街は北緯 64.7 度に位置する。北極圏よりは南で、完全な白夜にはならないが、今の時期は非常に日が長く、夜 10 時でもまだ外が明るい。夕食後も明るい状態で、いろいろと見ることができるのが嬉しい。



まずは、友人の案内で、この古い建物を見にいった。これは学校にも見えるし、教会にも見えるが、実際にその両方の役割を果たしていた。一時期は病院の機能もあったようだ。現在は教会も学校も別々にあるので、「カルチャーセンター」や街の歴史を紹介する「教育博物館」として、地元の小学生の学習や、街を訪れた人の見学に役立っている。



これは内部の一室で、当時の教室の様子が再現されている。黒板、児童用机、教科書やノート類、それに日課簿や出席簿もそのまま展示されていて、とても面白かった。オルガンは普通に音が出て、今でもこのまま授業ができそうな教室だった。



街を一周しても、まだ時間があつたので、近くの湖まで歩くことにした。ちょうど友人宅に、湖畔に別荘を持つ夫妻が来ていたので、その方に案内してもらうことにした。スウェーデンではとにかくお年寄りが元気だ。砂利道をガンガン歩いてゆく。



ララローセン（ヤナギラン）が満開だった。残照の美しい散策道である。



これが湖畔の別荘。メインハウス、ゲストハウス、サンルーム、サウナ専用棟、栈橋、ボート・・・考えられる限り、こんなに贅沢な別荘はない。ここで夏の間、ずっと過ごすというのだから、羨ましい。



別荘の庭からの夕日。別荘のオーナーの方は、四角い筏にエンジンをつけて、沖に出してバーベキューをする計画だ、と話していた。自然のスケールも大きいですが、レジャーのスケールもデカイ！



この日は最後に、友人の家の庭で、日本から持ってきたドローンを飛ばしてみた。ほとんどおもちゃのドローンだが、屋根よりも高く飛んで、結構きれいに撮影されていた。



「バストゥトレスク駅とS Jの列車」 C.Tanaka